

顔面軸 (Fx)

睡眠時無呼吸症候群をとりまく病気

2010年9,10月

さて、顎の大きさや形はどのように診断するのでしょうか。それは、横顔のレントゲンで顔面軸という名称の角度を測定して診断しているのです。この角度は、日本人の平均が 86 度です。それよりも小さいと顎が後ろに下がっていびきをかきやすい体質になります。そして、80 度より小さい場合は遺伝する可能性があります。一方、米国人の顔面軸は 90 度と日本人よりも大きく、そのおかげで米国人は多少太ってもいびきをかきません。日本人の中でも、縄文時代の日本人は顔面軸が大きかったと想像されております。その後、弥生人が渡来してきて、顔面軸が小さい現代の日本人が形成されました。面白いことに、現代日本人でも縄文系に近い人と弥生系に近い人がいて、同程度の無呼吸症なら縄文系の患者は肥満が強く、弥生系の患者では肥満が軽いことが知られております。

皆さんの顔面軸を計測してどちらの系統に近いかが診断できれば、その骨格での限界の体重、すなわちいびき症が発病する体重を予測できるのです。



今号は体格指数（BMI）と9月号（5号）で説明した顔面軸（Fx）を使っていびき症の重症度を予測する方法を説明します。BMIは大きいほど、Fxは小さいほど、無呼吸症が悪化しますので、BMIをFxで除した値を指標にします。この指標と無呼吸指数との関係を示したグラフでは、この指標が0.24で睡眠時無呼吸症候群が発病して、0.30でシーパップが必要なほど重症になることがわかります。

実はFxの値は一生変わりません。したがって、あらかじめレントゲンでFxを計測しておけば、どのくらいの身長では何kgの体重で無呼吸症が発病するかわかります。

お相撲さんのように体重を増やすスポーツとか、出産のために体重が増える妊婦さんとか、無呼吸症が発病する限界の体重がわかれば便利じゃないですか？

さらに無呼吸を治すための減量の目安もグラフから読み取れます。センターではすべての患者さんのFxを測定しますので、興味のある方は担当医におたずねください。